



**鹿屋航空基地史料館**

- 入館日 12/29~1/3を除く毎日
- 開館時間 9:00~17:00  
(入館は16:30まで)
- 入館料 無料
- 場所 鹿屋市西原3-11-2
- 【問い合わせ】 ☎0994-42-0233



**掩体壕(えんたいごう)**

幅 17.7 m、奥行 10.75 m、高さ 4.2 mのコンクリート製の格納庫で、軍用機を敵の空襲から守るために設けられたものです。  
※基地内のため、見学には事前に許可申請が必要です。



**二式飛行艇(にしきひこうてい)**

通称、二式大艇。同飛行艇は、水上を滑走して離水し飛び上がります。平成16年4月から屋外展示されており、展示機は、世界で唯一現存する機体です。



**史料館内**

1階は、現在の海上自衛隊の活動状況が、2階には、旧日本海軍創設期から第二次世界大戦までの資料等が展示されています。



**零式艦上戦闘機五二型(れいしきかんじょうせんとうきごにがた)**

通称、零戦(ぜろせん)。平成4年、2機の零戦が垂水市まさかり海岸と吹上浜の海底から引き揚げられ、ともに補う形で1機の零戦となりました。



①戦時中の鹿屋航空基地 ②隊員と女子挺身隊との記念写真 ③野里の地で地元住民と触れ合う隊員 ④戦後米兵が撮影した高須川 ⑤爆撃を受けた鹿屋基地の滑走路 ⑥桜花隊員の宿舎前での写真 ⑦進駐車による鹿屋市内での写真(左端が故二階堂進氏、一人はさみ故永田良吉鹿屋市長)

※写真提供 鹿屋航空基地史料館

風化させてはならない  
戦争を学び、平和を考える



戦後六十七年を迎えようとしている今、時とともに戦争の記憶も風化しようとしています。太平洋戦争において幾多の歴史を刻んだ地、鹿屋。この地に残る戦争の記憶をたどり、平和についてあらためて考えてみましょう。

「908名、363名」。

この人数は、鹿屋海軍航空基地、串良海軍航空基地から南方へと飛び立ち、再び帰ることがなかった若き特攻隊員の数です。

海軍航空の拠点であった鹿屋基地には、戦局が悪化した戦争末期の1945年、海軍の航空部隊を統合する第五航空艦隊司令部が設置されました。その主な目的は、沖縄及び九州本土への上陸阻止作戦のためでした。ここから沖縄決戦を含め特攻隊70部隊が出撃し、最も多くの特攻出撃戦死者が出ました。

また、教育航空隊として開隊した串良海軍航空隊は、約5,000人の飛行予科練習生が訓練を受けた地です。しかし、この地も鹿屋基地と同様、特別攻撃隊の基地となり、多くの特攻機が飛び立っていました。

このような特攻の記録が残るなか、背後に基地を控え戦

略上の要衝として多くの被害を受けた高須町では、町民で戦争体験を持ち寄り「高須町民私の戦争体験」という文集を発行。また、数年に一度、「戦争体験と平和を語る会」と題し、戦争の体験談を話してもらう機会を設けるなど、悲惨な戦争の記憶を次代に語り継ぐ取組を行っています。

このように、鹿屋市には太平洋戦争における戦跡と、戦争体験者による記憶が数多く残されています。

二度と戦争を起こさないためにも、鹿屋市の歴史の一部である戦争の記憶を、決して風化させてはなりません。

いま一度、戦争の真実を学び平和について考えてみましょう。

【問い合わせ】  
市商工観光課  
☎0994-31-1121  
鹿屋航空基地史料館  
☎0994-42-0233